



その時、広島には黒い雨が降った

本日8月6日は77年前の1945年、8月6日8時15分、広島に原子爆弾が投下された日です。当時、広島には黒い雨が降りました。その日のことを絶対に忘れてはならないという意義を込めて毎年、広島平和式典が行われています。今日は土曜日だったので校長先生は自宅でTVで視聴しました。8時15分に黙とうを捧げました。その後の松井広島市長の「平和宣言」、小学生2名による「平和への誓い」も視聴しました。私たちは、今改めて、『戦争と平和』で知られるロシアの文豪トルストイが残した「他人の不幸の上に自分の幸福を築いてはならない。他人の幸福の中にこそ、自分の幸福もあるのだ」という言葉をかみ締めるべきです。という市長の言葉が心に残りました。また、何よりも小学生2名による「平和への誓い」に心打たれました。以下に全文を紹介します。よく読んでください。

「平和への誓い」

あなたにとって、大切な人は誰ですか。家族、友だち、先生。私たちには、大切な人がたくさんいます。大切な人と一緒に過ごす。笑い合う。そんな当たり前の日常はとても幸せです。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。

道に転がる死体。死体で埋め尽くされた川。「水をくれ。」「水をください。」という声。

大切な人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や未来が突然奪われました。

あれから77年経ちました。

今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。

戦争は、昔のことではないのです。自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。

本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。過去に起こったことを変えることはできません。

しかし、未来は創ることができます。

悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、平和な広島を創ってくれました。

今度は私たちの番です。

被爆者の声を聞き、思いを想像すること。その思いをたくさんの人に伝えること。

そして、自分も周りの人も大切にし、互いに助け合うこと。

世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓います。

令和4年(2022年)8月6日

こども代表 広島市立幟町小学校 6年 バルバラ・アレックス

広島市立中島小学校 6年 山崎 鈴



ウクライナへのロシアの武力侵攻が起こっているこの時に、みんなも改めて「平和」について考える日にしてほしいと思います。

部活動に毎日頑張っているみんなの姿を見て、うれしく思います。感染対策を忘れずに、残りの夏休みも有意義に過ごしましょう。